

県内の森林環境譲与税の活用状況について

令和 2 年 1 2 月 2 1 日
千葉県農林水産部森林課

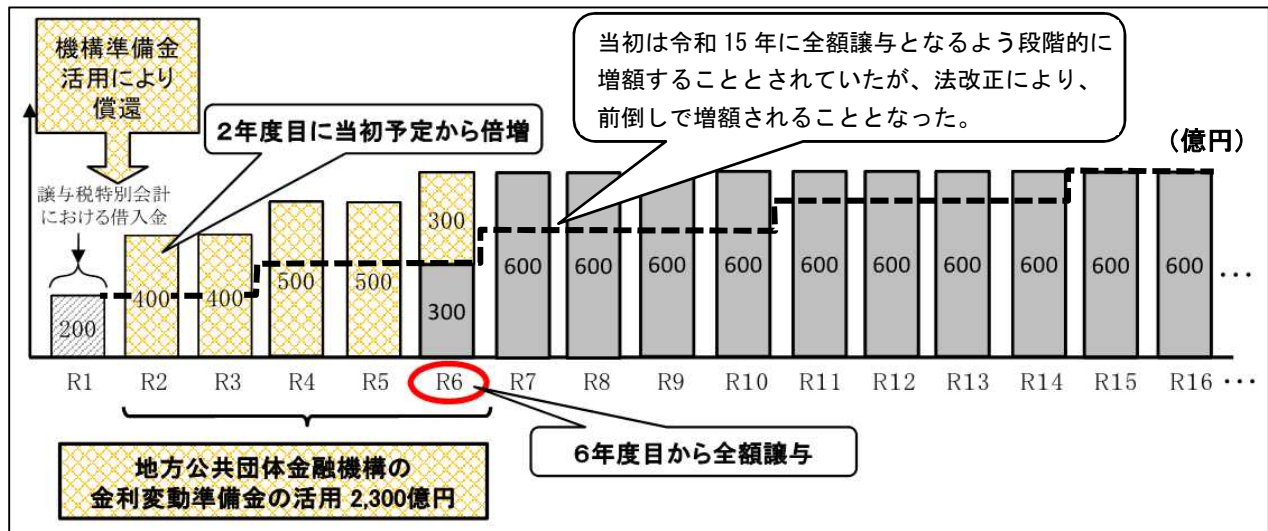
1 森林環境譲与税

(1) 経緯

国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止に向けて、市町村が実施する森林整備等に必要な財源を確保するため、平成 31 年 3 月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が制定され、令和元年度から、県、市町村への譲与が開始された。

また、令和元年の台風災害等を受け、森林の整備促進が喫緊の課題とされたことから、令和 2 年 3 月に同法が改正され譲与額が前倒しで増額されることとなった。

(2) 各年度の譲与額（全国）



(3) 県内市町村及び県への配分試算額（年額）

年 度	R1	R2～3	R4～5	R6～
県	8 6 百万円	1 2 0 百万円	1 2 0 百万円	1 2 0 百万円
市町村	3 1 0 百万円	6 6 0 百万円	8 6 0 百万円	1, 0 5 0 百万円

(4) 用途

- 市町村：間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用に充てる
- 都道府県：森林整備等を実施する市町村の支援等に関する費用に充てる
(上記の範囲内において、幅広く弾力的に活用することが可能とされている)

2 県における活用状況

令和元年度森林環境譲与税の使途一覧

千葉県

事業区分	事業名	事業総額（千円）			当年度基金への積立額（千円）	事業内容
		(A)+(B)	(A)うち令和元年度の森林環境譲与税（千円）	(B)うち他の財源（千円）		
事業支援システムの構築	森林整備事業（森林整備事前準備モデル事業）	8,938	8,938	0	—	森林整備のための事前準備を実施する市町村を支援した。
	森林計画推進事業（森林クラウド保守管理業務）	6,010	6,010	0	—	県が管理する森林資源情報を市町村等とリアルタイムで共有するため、森林クラウドの管理を行った。
	森林計画推進事業（施業履歴整理業務）	4,010	4,010	0	—	市町村による森林整備の円滑な実施のため、県内の森林整備の実績の整理を行った。
森林整備の支援等	森林整備事業（森林経営管理集落支援モデル事業）	4,058	4,058	0	—	地域住民と森林の関わりの再生を図るため、市町村の集落等を活用した集約化施策を総合的に支援した。
	サンブスギ林総合対策事業（サンブスギ低被害林等箇所特定調査）	3,656 (4,944)	3,656 (4,944)	0 (0)	—	サンブスギ非赤枯性溝腐病被害がない、または少ないサンブスギ林の箇所を特定し、今後市町村主導で低被害林の整備をするために必要となる基礎的な情報収集を行った。
人材育成・担い手対策支援	森林・林業担い手確保・育成対策事業（森林・林業経営参入促進事業）	3,153	3,153	0	—	建設業等の異業種と林業事業者等との連携を図り、新規事業者の森林・林業への円滑な参入を支援した。
	さとやま整備・活用促進事業	6,568	6,568	0	—	地域住民等による里山林の整備を進めるため、里山整備や利活用に関する総合窓口を設置し、活動する団体向けに安全講習会等を実施した。また整備した里山の魅力を発信する一般向けイベントを実施した。
木材利用の推進	ちばの木活用促進事業（県産木材の利用拡大に向けた調査）	995 (6,000)	995 (6,000)	0 (0)	—	病害虫被害材など低質材のボード・合板利用に向けて、製造及び利用上の課題を整理するための調査を実施した。
	ちばの木活用促進事業（ちばの木の香る街づくり推進事業）	6,132	6,132	0	—	公共建築物など展示効果の高い施設での、内装等の木質化や木製品の導入経費を助成した。
	ちばの木活用促進事業（木造公共建築物技術講習会の開催）	1,606	1,606	0	—	公共建築物の木造化・木質化を促進するため、市町村職員等を対象とした技術講習会を開催した。
普及啓発の支援	林業普及指導事業（木育の推進）	501	501	0	—	子供達に木材や木製品との触れ合いを通じて木材の良さや利用の意義を学んでもらうため、木工出前授業の実施や木工工作作品展の開催支援を行った。また、今後の木育活動の推進に向けて外部有識者との意見交換を行った。
基金積立	森林整備担い手対策及び市町村支援等推進基金への積立	21,377	21,376	1	21,377	森林クラウドの更新・改良等の費用に充てるための金額を基金に積み立てた。なお、(B)欄の1千円は運用益である。
合計		77,947	77,946	1	21,377	繰越額を含む金額である。

※事業総額欄の下段（ ）書は、翌年度への繰越額で外数である。

※単位未満を四捨五入しているため、各欄を合計した値と合計欄の値は一致しないことがある。

3 市町村における活用状況

(1) 使途区分別の取組市町村数

使途区分	森林整備	担い手対策	木材利用促進	普及啓発	基金積立
R1 (実績)	11	3	6	6	47
	20%	6%	11%	11%	87%
R2 (R2.9現在)	21	5	8	3	54
	39%	9%	15%	6%	100%

※複数の使途に使用する市町村があるため、合計値は、市町村数と整合しない。

※このほかに、森林クラウド使用料の財源としている市町村があるが、集計からは除外している。(R2:44市町村)

(2) 令和元年度の活用事例

森林整備 千葉県 市原市 (意向調査優先順位案の作成)

> 市原市では市域の約35%を森林が占めているが、森林所有者の経営意欲の低下や所有者不明森林の増加により、人工林の荒廃が進み公益的機能の低下等の影響が生じていることから、森林環境譲与税を財源として、森林経営管理法に基づく取組を推進する方針。
 > 令和元年度においては、既存のレーザー測量成果等の資料を収集・分析することにより森林の現況を把握し、意向調査の優先順位案を作成した。

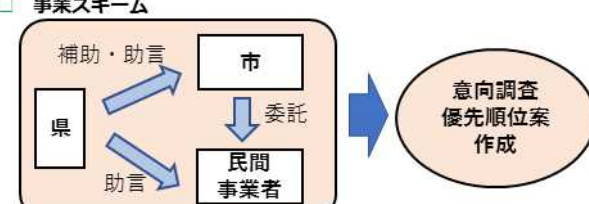
事業内容

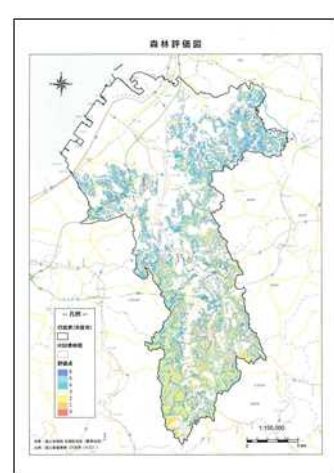
1 意向調査優先順位案の作成

【事業費】9,350千円 (うち譲与税4,675千円)

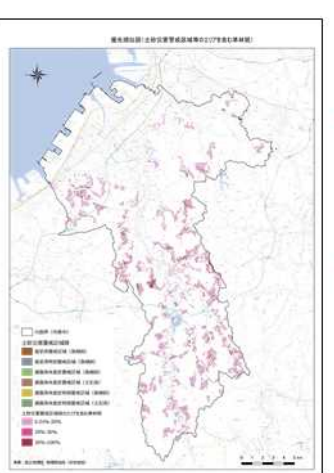
【実績】優先順位案の作成

事業スキーム





(森林評価図)



(防災面から検討した優先順位図)

工夫・留意した点

航空レーザー測量データ等の既存データを分析することで、客観的に林業経営に適した森林を把握するとともに、千葉県実施の世論調査において住民の関心の高かった「防災面」「環境面」からも森林整備の優先順位を検討した。

基礎データ

①令和元年度譲与額	16,125千円
②私有林人工林面積 (※1)	3844ha
③林野率 (※2)	36.6%
④人口 (※3)	274,656人
⑤林業就業者数 (※4)	28人

※1：「森林資源現況調査 (林野庁、H29.3.31現在)」より、
 ※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より

千葉県 山武市（木の駅プロジェクトに対する補助金の交付）

- 山武市では、木材価格の低下により、林業を営む者が減少し、森林整備が進まなくなり、山林の荒廃が起これ、その中でサンプスギが罹患しやすいと言われているスギ非赤枯性溝腐病が蔓延し、市内の9割以上のサンプスギ林が罹患してしまった。スギ非赤枯性溝腐病は伐倒・搬出・運搬し、再造林しない限りサンプスギ林に蔓延してしまう。それに加え令和元年房総半島台風により市内の森林は壊滅的な被害を被った。その中で当市では、山林内に伐倒したままになっている残材の搬出を促す目的で、木の駅に材を搬出してくれた方に1t当たり3,000円を助成している。今回、林業事業者にも1t辺り2,000円助成することにより、さらに森林整備を加速させ、未利用材を市内の土場に運搬させやすくすることにより、事業者の利便性を高め、効率よく森林整備を進める方針。
- 令和元年度においては、事業者へ1t2,000円の助成をすることにより、1,000tの木の駅への持ち込みが発生した。

事業内容

1 林業事業者への木の駅へ持ち込む際の補助支援

- 補助支援の枠を一般分だけでなく事業者分を拡大したことにより、搬出量の増加を促した。

【事業費】2,000千円（全額譲与税）

【実績】1,000t



（事業1：木の駅土場の様子）



（事業1：搬出された溝腐れ病に罹患したサンプスギ材）

事業スキーム



基礎データ

①令和元年度譲与額	5,795千円
②私有林人工林面積（※1）	2,978ha
③林野率（※2）	27.3%
④人口（※3）	52,222人
⑤林業就業者数（※4）	9人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より

千葉県東金市（道の駅みのりの郷東金における県産材を利用したテーブル）

- 東金市では、平成30年11月22日に東金市木材利用促進方針を策定し、市の公共施設に県産材を利用した木製備品を設置しているところである。
- 令和元年度は来場者が多く、人々の関心を惹きやすい道の駅みのりの郷東金に、サンプスギ材を用いた木製ピクニックテーブルを設置した。
- 社会福祉法人 習愛会 花の実園（習志野市）に発注し、道の駅の外観に合ったデザインのテーブルが完成した。
- 現在道の駅にあるレストラン「とっちゃん」に設置、3密を意識したうえで、多くの来場者やレストランのお客様のくつろぎの場として活躍している。

事業内容

1 木製ピクニックテーブルの購入

【事業費】440千円（うち譲与税440千円）

【実施時期】令和元年11月～2月

【実施内容】

道の駅「みのりの郷東金」にサンプスギ材を利用した木製ピクニックテーブルの展示を行い、市民等に対し木材利用の啓発を図る。

- 木製ピクニックテーブル 8台（長さ1,800×幅1,400×高さ700）



事業スキーム

- 市は社会福祉法人 習愛会花の実園からピクニックテーブルを購入



工夫・留意した点

- 材料に県産材を使用することを指定したので産地証明（ちばの木認証センター発行）を添付
- 現地での組み立て作業は事前に道の駅との調整が必要
- 設置後のメンテナンスについて確認が必要

成果

- 道の駅では、スナックコーナーや直売場で購入した食べ物を飲食できる場所を希望していた。2月には多くの来場者が利用していた。現在はレストランに設置して3密に注意してテーブルを利用している。
- 道の駅の外観と調和のとれたデザイン

基礎データ

①令和元年度譲与額	6,820千円
②私有林人工林面積（※1）	990ha
③林野率（※2）	11%
④人口（※3）	60,652人
⑤林業就業者数（※4）	68人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より